

**情報通信審議会 情報通信技術分科会
広帯域移動無線アクセスシステム委員会
小電力レピータ作業班（第1回） 議事要旨（案）**

1 日時
平成20年12月18日(木) 14:00~15:00

2 場所
総務省 8階 第1特別会議室

3 出席者（敬称略）

作業班構成員：

若尾 正義	(社)電波産業会
新 博行	(株)NTT ドコモ
飯田 宗夫	京セラ(株)
石田 和人	クアルコムジャパン(株)
井坪 智司	東京ケーブルネットワーク(株)
伊藤 健司	欧州ビジネス協会
齊藤 民雄	(株)富士通研究所 (代理：吉田 誠)
佐伯 隆	パナソニック電工(株)
櫻井 浩	東日本旅客鉄道(株)
中川 永伸	(財)テレコムエンジニアリングセンター (TELEC)
中川 三紀夫	(株)フジクラ
中山 正芳	住友電エネットワークス(株)
原田 博司	(独)情報通信研究機構 (代理：宮本 剛)
八木 学	日本電気(株) (代理：池田 哲)
矢野 陽一	(株)ウィルコム
山口 博久	インテル(株)
山本 浩介	モトローラ(株)
要海 敏和	UQ コミュニケーションズ(株) (代理：伊藤 泰成)

事務局：

総務省 総合通信基盤局 電波部 移動通信課長 竹内、同課 課長補佐 山口、
同課 移動体推進係長 白壁、同課 第二技術係長 遠藤

4 配布資料

資料番号	配布資料	提出元
資料2021-LPR1-1	情報通信審議会情報通信技術分科会（第62回）資料	事務局
資料2021-LPR1-2	広帯域移動無線アクセスシステム委員会 運営方針	事務局
資料2021-LPR1-3	小電力レピータ作業班 構成員	事務局
資料2021-LPR1-4	小電力レピータ作業班 運営方針(案)	事務局
資料2021-LPR1-5	調査の進め方	事務局
資料2021-LPR1-6	小電力レピータの要求条件及び技術方式並びに小電力レピータモデルの提案について	事務局
資料2021-LPR1-7	Mobile WiMAX中継方式の標準化／世界動向	インテル(株)
参考資料	広帯域移動無線アクセスシステム委員会 構成員	事務局

5 議事概要

(1) 情報通信技術分科会での審議開始について

事務局より資料2021-LPR1-1及び資料2021-LPR1-2に基づき、2.5GHz帯を使用する広帯域移動無線アクセスシステム用小電力レピータの技術的条件について、平成20年12月11日に開催された技術分科会において審議開始の報告がされたこと、平成20年12月15日委員会において作業班が設置されたこと等の説明がされた。

(2) 作業班の運営方針について

事務局より、資料2021-LPR1-4に基づく作業班の運営方針についての説明後、次のとおり質疑応答があった。

石田構成員：調査事項として、必要とする情報の「収集」とあるが、技術的条件を新たに定めるものではないか。

事務局：必要とする情報を収集して、技術的条件についての調査を促進させるため技術的条件の検討も含まれるものである。

(3) 委員会における調査の進め方について

事務局より、資料2021-LPR1-5に基づく委員会における調査の進め方についての説明後、次のとおり質疑応答があった。

矢野構成員：調査の方向性に記載されている調査対象は、包括免許の対象となる陸上移動局のみなのか、それとも包括免許の対象にならない陸上移動局も含めるのか。

事務局：個別免許の陸上移動中継局については、既に規定の整備がなされているため、今回対象を想定しているのは簡素な手続きで設置ができる包括免許の対象となる陸上移動局の技術的条件について検討をお願いしたい。

新構成員：干渉検討の組合せ①としてBWA低周波数帯とN-Star（移動局）の組合せがあるが、干渉検討を行うのは低周波数帯に割り当てられている次世代PHSだけなのか、それともモバイルWiMAXも含めて検討を行うのか。

事務局：干渉調査の具体的なことについては今後、本作業班等でご検討いただくことになるので、その中で必要な組合せについてもご議論いただき、必要があれば検討を行っていただければと考えている。

中山構成員：委員会で意見募集を行うことになっているが、意見募集の内容について第2回の作業班で議論することはあるのか。

事務局：意見陳述の場は親委員会となるため。委員会における陳述結果や委員会からの意見をふまえ、作業班で再度検討すべきとなった場合にはご議論頂く可能性もある。

(4) 技術方式等の提案について

事務局より、資料2021-LPR1-6に基づく技術方式等の提案についての説明後、次のとおり質疑応答があった。

山本構成員：包括免許のために具備すべき機能等としては、技術方式の提案様式の1の(1)、(2)、(3)であるということによいか。

事務局：そのように考えているが、これにさらに必要な条件があれば追加していただきたい。

(5) Mobile WiMAX中継方式の標準化／世界動向について

インテル株式会社の菊池氏より資料2021-LPR1-7に基づき、WiMAX中継局方式の国際動向等について説明がされ、その後、次のとおり質疑応答があった。

若尾主任：WiMAXは日本では30MHz帯域を割当てられているが、30MHz全体を使用するのか、それとも10MHzずつ、5MHzずつというように分けて使用するのか。

伊藤氏：基本システムは10MHz 3波で、周波数の高い2波を主として屋外、周波数の低い1波を主として屋内向けで使用することを考えている。レピータについては、どの周波数でも使用することができる必要があると考えている。

若尾主任：WiMAXのレピータはPHSのレピータのようにどのチャネルを使用するかキャリアセンスを行い選択するのか、それともあらかじめ割当てられたチャネルで自動的に中継を行うのか。

伊藤氏：基地局側でチャネルを決定するので、端末の周波数に対応して空きチャネルを選択し中継を行う。周波数の選択はレピータは一切行わず、基地局まで上がって行われる。

中川構成員（TELEC）：WiMAXの非再生中継を行う場合はどのように同期を取るのか。

伊藤氏：詳細は不明だが、基地局からのGPS信号あるいは同期信号を復調していると理解している。

(10) その他

事務局から、当該システムの技術的条件の策定に向けて、広く意見募集も実施すること、親委員会は、この意見募集の結果も十分留意しながら検討を進めていくことになる旨説明がされた。また、次回作業班会合の開催スケジュールについては、主任と相談の上、別途連絡する旨説明がされた。